

(2016-2017 年度)

第 2 回複合地区ライオンズクエスト委員長【ウェブ】連絡会議議事録

◎日 時： 2017 年 2 月 3 日 (金) 14:00-15:55

◎会議システム： 0muniJoin(オムニジョイン)

◎出席者：

330 複合地区青少年・レオ・LQ 委員長	飯田 善彦
331 複合地区ライオンズクエスト委員長	井ノ浦 義明
332 複合地区LQ・薬物乱用防止委員長	小池 總明
333 複合地区LQ・薬物乱用防止委員長	小倉 康延
334-E 地区ガバナー	武田 善彦
335 複合地区ライオンズクエスト委員長	足達 靖彦
議長連絡会議世話人	安田 克樹

14:00、第 2 回ウェブ会議冒頭で連絡会議世話人安田議長より開会の言葉。
連絡会議世話人安田議長より「第 1 回に引き続き第 2 回複合地区ライオンズクエスト委員長会議よろしくお願ひします。15 時から別の会議が予定に入っておりますので 50 分程度オーバーとして聞かせて頂くことで宜しくお願ひいたします。」との挨拶がある。
引き続き足達世話人より PC 内臓のカメラの不具合により音声だけによる対応について謝罪と了承を願う挨拶がある。

◎議 事

1. 議事進行について

- ・本日は、JIYD の馬淵様が本会議に出席して頂いている。後半で馬淵様に入って頂き JIYD の現況および各地区からの要望や質問等に答えて頂く。そのため委員長各位から事前にアンケートを頂いた。
アンケートの内容は、JIYD に関する事項と、われわれライオンズクラブに関する事項、またその中には重複している箇所があり、整理し JIYD に関する部分は、馬淵様から答えて頂く。また馬淵様からの依頼事項もある。
尚、事前のアンケート以外で質問事項があれば合わせて質問を願う。
- ・334 複合地区から JIYD に対する要望や質問事項を頂いているが、全て対応することは時間的に無理が生じる。
よって各地区から頂いている質問と重複している箇所以外は、馬淵様と連絡を取って頂き対応して頂くよう願う。
335 複合地区委員長会議でも馬淵様に同席を願ひコミュニケーションを図った。各複合地区でも JIYD の出席を要望することも可能である。考慮して頂きたい。
- ・334 複合地区LQ・薬物乱用防止委員長L笠原文武は、当初出席の予定であったが、昨日体調不良のため欠席の連絡があり、代理として 334-E 地区ガバナーL武田善彦に出席して頂いている。

2. 前回会議要録の確認および前回以後の活動

- ・第 1 回会議の要録を送付しているが、内容等に問題があれば、前回会議後の活動報告

時に合わせて連絡をお願いする。

- 330 複合地区：LQの普及活動の推進について、複合地区委員会でDVDを作成する旨の決定をした。

内容は、当初、330-B地区で相模原市の中野中学校でLQを導入し、成果が出ている事例をJIYDのDVDに収録されているので、この事例を中心に、前後に関連内容を結合し作成する方向で考えていた。

ところがJIYDから中野中学校の内容を取り入れることにストップがかかったので困っている状況である。

尚、JIYDから近々新たなDVDを作成とのことであるが、当委員会としては、JIYD作成のDVDを普及させることについて、330複合地区の現況から勘案して無理があるように考える。その理由として、330複合地区の状況は、まずA地区では、歴代ガバナーの中で私（飯田委員長）を含む2名が理解を示すが、それ以外の歴代ガバナーは、JIYDに対して不信感を抱いており、LQについても関心を示さない。そのため全く普及しない。

B地区でも歴代ガバナーがJIYDに対し不信感を抱いており、JIYDのDVDを見ることもしない。よって普及は全く進まない状況にある。

C地区は、歴代ガバナーがLQに理解を示しており、JIYDの存在価値も承知している。JIYD作成のDVDの普及について推進したいが、各クラブがDVDを見たり普及に努めてくれるか否かについて苦慮している。

過日、複合地区の委員会で、私（飯田委員長）からLQならびにJIYDの状況説明を行ったところ、ある元ガバナーと口論になった。そのくらいJIYDに対する不信感があり、LQ普及の障害となっている。

よって私（飯田委員長）は、330複合地区として、今期JIYDからのLQ推進ではなく、中学現場の生徒から「LQは素晴らしい取り組みである・・・」との、第三者の声をもって推進を図っていく方向で考えている。

委員会としては、DVDの作成を決議したが、現況から暗礁に乗り上げた状態である。

- 331 複合地区：A地区では、1月にワークショップならびにフォローアップを開催した。B地区は、夏のワークショップ開催以後変化がない。C地区は、セミナーを開催する。よって、331複合地区として、特段これと言った大きな動きはない。

- 332 複合地区：東北地区では、LQの推進が若干遅れているようで、委員長としてどのように活性化を図れば良いか苦慮している。

複合地区の連絡会議で委員長としての考え方を述べたところ、次期ガバナーから「是非勉強会を開催してもらいたい」と提案があり、1月16日に332複合各地区から仙台に集合し、LQを推進している中学校の校長先生を講師に招き勉強会を行なった。

LQが進展している地区は、ガバナーまで参加し勉強に取り組んでいるが、進展が見られない地区は、参加者がなく誠に残念である。こうした現況は芳しくなく今後改善に努める。

最も進展している地区はE地区（仙台）で、この地区の10年前のガバナーが中学校の校長先生であったため、LQが進展した。私（小池委員長）と同期のガバナーであったので、今期、私も自ら進んで委員長になり取り組む所存で現在努めている。

この立場から感じることは、地区のガバナーが推進役となり「子どもたちを助けよう」と意識を持たなければ進展は望めないと強く感じる。

地区ガバナーが委員長を任命しても、その委員長がどのように活動すれば良いのか分

からなければ進展は見られない。任命した地区ガバナーが「どのように関心を持ちどのように進めるか」と言った部分を次の複合連絡会議で提案し、「子どもたちがすくすく育つ環境づくり」に努める所存である。

- 333 複合地区：各地区とも活動しているが、会議がなかったため全体の活動報告は出来ない。

そのような中で、B地区では12月18日にキャビネットのセミナーが開催されて約50名の参加があった。セミナーの内容は、LQを取り入れている中学校の校長先生からの講演である。

1月に入って小学校のワークショップ（1.5日）を開催した。1.5日と厳しい日程であったが、JIYDと相談のうえ実施した。参加した各教員から喜んでもらった。現在小学校へのLQ推進にも取り組んでいる。

また、中学校で薬物乱用防止教室の授業にLQを取り入れている。今後もLQに取り組んで頂いている中学校で薬物乱用防止学習にLQを取り入れてもらうよう推進を図り、経過観察を行いながら今後の進展に努める所存である。

- 334 複合地区：＊音声に乱れが生じ聞き取りにくいいため次に進む。
- 335 複合地区：10月以後A・B・D地区とも当初予定のワークショップは、8月の夏休みに概ね終了し、来期に開催の予定に取り組んでいる。この現況の中で新たな動きとして、B地区の堺市でJIYDとの協議により、小学校対象の1日ワークショップを実施し好評であった。

C地区は、今期7月～6月迄平均的に11回開催の予定で進んでおり、現在8割程度終了している。この予定の方法は、私（足達委員長）がC地区委員長の折にワークショップを夏休みに集中するのではなく、年間を通して平均的に開催する計画を立案したので、この方法が現在も遂行されている。

尚、C地区では、京都教育大学でLQを授業に取り入れているので取得単位として認められている。特殊な事例である。今後も継続されていく。また、来季の開催予定についても同時に計画中である。

1月25日に複合地区の委員長会議を開催したが、本会議にJIYDの馬淵様に同席して頂きコミュニケーションを図った。今後JIYDとしても、複合地区ならびに準地区でコミュニケーションを図りたい旨を希望されている。各地区で調整を図って頂き開催されては如何だろうか。

- 334 複合地区：電波か器具の関係かいずれの原因か判明しないが、聞き取りにくい状況であり最初の一部を紹介する。

E地区では、4地区でワークショップを主体に活動しているが、その中で新しい動きとして1月15日～16日にワークショップを開催・・・・・・・・・・・・・・・・

＊これ以後、音声判別しにくく言葉が聞き取れない。また何れかの場所で周りの音声や雑音を拾うため聞き取りにくい状況であった。よって録画から整理し記述する予定であったが、前述の状況から記述することが出来ず、報告が不可能であるためご理解を賜りたい。

3. LCIFからのアンケートについて

9月中旬にLCIFから、LQの交付金の関係による準地区へアンケートが届いている。締切りが10月初旬で、また12月に再度アンケートの回答を促す文面が届いた。各地区で返信しておられるだろうか。

- ・330 複合地区：その情報を聞いており、A地区のガバナーにアンケートの件を訪ねると文書がどこにあるのかさえ定かな返事がない。前述のようにLQに対し温度差があり、率直に申し上げると、LQに対し反対の姿勢があり、よってその資料を手にすることが出来なかった。アンケートを返信しているか分からない。
 - ・331 複合地区：A・B・C各地区がアンケートにどのように対応したか把握していない。
 - ・332 複合地区：事務局で把握していると思うが、私（小池委員長）は聞いていないので返答出来ない。
 - ・333 複合地区：アンケートは返信している。
 - ・334 複合地区：*音声が入らないため記述出来ない。
 - ・335 複合地区：4地区とも回答している。
- *LCIFへ回答されなければ交付金が出ないことになりかねない。各地区とも的確な回答による返信をされるよう願う。

4. JIYDへの質問および要望

①交付金（助成金）について

Q：LCIFからの交付金はいつまで続くのか。

A：JIYDとして返答出来ない。

②費用について

Q：JIYDの費用が高くワークショップ開催に支障が起きる可能性がある。教材が高い。パンフレットが無料か格安にならないか。

A：ワークショップ開催の費用が高いとの声があることは十分承知している。JIYDとしては、現在年間100回規模でワークショップを開催して頂いており、100回規模のワークショップを開催するために事務局費用としてお願いしている次第である。教材についても高いとの声を聞いている。教材費は確実な返答は出来かねるが、今後努力をしていきたいと思っている。

他の国と比較するのは難しいと思うが、参考までにアメリカでは、教材は1学年毎に配布しており、1学年の教材セットが\$150、日本円で¥16,000ぐらい。ヨーロッパはLQの進展が著しい地域であるが、その中でもドイツがひととき目立つ。ドイツの教材費は¥6,000ぐらいである。日本では我が国の学校システムに合わせて小学生版・思春期版（中学生～高校生）セット¥7,000でお願いしている。どうしても使いやすいように作っているため、そのためコストがかかっており現在の費用となっている。

パンフレットは、コスト削減に努力をしてきた。また内容も充実してきている。印刷実費やその他の経費がかかるため、ライオンズクラブ様に購入して頂き、購入して頂いた費用を資金として、新しい広報資料の開発等に取り組んでいる。今後価格について努力をしてまいる所存である。今後の起案資料のためにもお願い申し上げる次第である。

Q：330 複合地区飯田委員長

パンフレットの価格は、パンフレット印刷費の実費で、パンフレットのある程度の収入を次回のパンフレット作成の助成金としている回答であったが、それは実費とは言えないのではないか。

A：ライオンズクラブ様への価格設定の中身は、印刷費の実費に加えて少し上乗せさせて頂き、その部分で今後の広報資料開発の費用にあてさせて頂いている。

Q：販売における収入（利益）によって次のパンフレットを作製するのではなく、LCIFにパンフレット作製費用の助成を申請し、少しでも単価を下げて日本全国に普及す

るようお願いしたい。

A：LCIF から支援を頂ければパンフレットの単価に反映出来ると思う。

Q：331 複合地区井ノ浦委員長

LCIF からの交付金がどのようになるのか分からない状況にあるとのことであったが、交付金によってLQが成り立っている現状であり、交付金がなくなればLQの事業が成り立たなくなるがJIYDとしてどうなのか。

A：現在日本におけるLQのワークショップは、LCIFの四大交付金によって成り立っているので、四大交付金がなくなれば大幅な縮小になる。

Q：将来的にそうなればキャビネット事業の中心になっているので、いずれ本来のクラブ事業に転換していかなければならないと思うが、それであればクラブとして費用がかかりすぎるということで、今後費用のかからない方法を考えていかなければならないが。

A：おっしゃる通りだと思う。LCIFの交付金がいつまで続くのかについては答えられない。交付金が未来永劫続くものではない。LQの資金費用について考えていく必要がある。ひとつに資金源の多様化としてライオンズクラブ主体からワークショップを開催している行政や民間企業等から支援を頂けることが出来ないか考えている。

Q：332 複合地区小池委員長

四大交付金の部分で332-C地区が空白になっているのは、四大交付金を使っていないという意味か、それとも回答していないという意味なのか。

A：使っていない意味である。

Q：JIYDには、ワークショップを主力に世話になっているが、講師の方々もたいへん勉強しており受講者は感動して帰る。問題は受講者がワークショップの内容を教室で実践しているか状況が分からない。

JIYDで受講者の実践状況等が分からないだろうか。また、われわれに情報提供をして頂けるようなことがあるのか。

A：JIYDでは全国津々浦々の実践状況について細かく把握出来ていない。ただしいろいろな地域の学校現場のプログラム活用実践については、把握しているものがある。そういったものについてホームページ・フェイスブック、また頻度は少なくなるが、年に一回私どもJIYDの年次報告書等で実践事例を紹介している。

Q：私共が一番知りたいのは、ワークショップ受講について推進しているが、受講後に子どもたちに如何に反映されているのか、一番大事なところがよく分からない状況である。私は授業参観をしたことがあり、たいへん良い授業になっている確認はしている。そのような授業をビデオに収録し、ライオンズクラブメンバーに紹介することで、少しでもLQの活動を理解してもらうことが大切であると理解している。JIYDからも良い事例を紹介してもらいLQ活動に活かせればもっと進展すると思っている。

Q：330 複合地区飯田委員長

馬淵様から「交付金が未来永劫ではない」とおっしゃっておられたが、情報は入っているのか。

A：少し訂正させて頂きたい。「未来永劫続か分からない」とお伝えしたが、具体的な情報が、私どもに入ってきているわけではない。

Q：LCIFからの交付金が止まってしまうとなると世界的にLQに関する活動が止まってしまうことなので発言については注意して頂きたい。

A：失礼しました。

Q：333 複合地区小倉委員長

LCIFの交付金については、MJF\$1,000 献金も行っているのですが、止まらないように願う。LQを実際に使った感想を教員に問いかけている。教員からは「非常に効果的で楽しい授業が出来ました」と答えが返っているのですが、ライオンズクラブから一歩踏み込んで地域の小・中学校に繋げる必要があるかなと思っている。

交付金申請は333 複合地区で、D地区以外は活発に行っている。B・Cは二地区合体で¥5,000,000 まで申請し有効に使っている。ただ費用が高いということもあるかも知れない。しかし子どもたちに還元できていれば高くないと思う。ただワークショップ等開催の要望が、JIYDの予定と重なるので日程が合わない。講師の数が少ないのか。

それから二日間の日程を今回1.5日で実施してもらったが、今後1日1日を分離して実施しては如何かと思うが。

A：開催形態および開催日程のご提案か。

Q：そうです。

A：（*ワークショップ開催モデル1参照）

現在これだけの開催モデルがある。最初に2日連続、これは日本にLQを導入した当初からの実施方法である。1日8時間を2日連続で開催するものである。

次に2日スプリットで、これは2日連続で行ってきたものを1日目と2目を離して開催するものである。1週間から数カ月の間隔を置くことが出来る。これが先ほどのようなご意見の形態である。この形態は2016年度で8回開催した。現在実施可能である。

もう一つは、2日+1日フォローアップ（1日）合体型で、2016年7月末から試行しており、2日間のワークショップに、2日目をすでに受講された方を対象としたフォローアップを兼ねる形態である。

332 複合地区小池委員長からワークショップ受講後の心配をされておられるご意見で、ワークショップ受講された先生で実際授業に導入された後、さらにスキルアップを希望される先生、問題に直面した先生に受講して頂く。また、ワークショップを受講されている先生方で実践されている先生方と交流を希望する方もおられるので、今までの単独によるフォローアップ・ワークショップの開催が難しくなってきた現状から、現在年間100回のワークショップをこの形態で開催出来ないか試行中である。

次は、1日ワークショップである。これは2016年10月から始めた形態で、335 複合地区足達委員長から報告のあった335-B地区堺市で開催した報告を頂いたが、その開催モデルになる。学校の方で2日間の時間をあてるのが困難であるといったことがあるので、そのような状況に対応出来ないかと思案した結果、試行の段階であるが実施した。

更に333 複合地区小倉委員長からご報告のあった1.5日開催である。この方法は、基本的2日開催を2日目の4時間部分を宿題として予習をして頂き半日をカバーする形態である。

このように試行中を含めて現在取り組んでいる。試行中の形態について正式導入はまだ先になるが、このような形態で実施できるよう取り組む所存である。

Q：受講希望の先生と講師の先生との時間が重なるので、例として午後から午後8時か、または午後3時から午後9時等夜の時間を使うことが出来ないだろうか。

A：出来なくないと思う。

Q：現状以上の開催を増やしたり、有効に広めるには先生方が忙しいのでいろいろ考えて突破口を見出さなければ進行しないと思慮する。ある市で全中学校の先生が受

講したが、全員の先生が揃わないと効果が半減する。全先生の受講を促す場合、先のような時間帯も考慮して頂きたい。

A：時間をずらす方法は可能だと思うが、学校の先生方は9時から17時の間以外は困難であると思う。試行中のモデルは正式導入ではないが、今後検討した後ご案内する。

開催モデルは、JIYDだけで決定できるものではない。LCIFの方で管理しているため、新しいことを実施する場合LCIFに開催モデルを提案し承認を受けるプロセスが必要になる。よってJIYDとして近々でも実施したいと思ってもなかなか難しい。

Q：330 複合地区飯田委員長

8ページに「ワークショップ開催数と講師人数の推移」を拝見しているが、講師はかなり増えているにもかかわらず開催数が近年伸びなやんでいる。この原因というのは、各地区でLQの予算化がなされていないのか。開催数が低迷しているようだが。

A：この表による開催数とは、各年度の1月から12月の数字である。2009年以降ワークショップ開催数は100回以上で推移している。ここに記載していないが、2016年度は120回になっているので増加している。開催数の増加について2つの要因があり、一つは講師数が大きく関係している。もう一つは開催資金の問題と思慮する。年間約100回開催されている中で、そのうち70%は夏休み期間中で、その次に多いのは、学校の先生方の研修機会というのは授業のない夏休み集中しているためLQの開催も集中してくる。その時に開催できるか否かについては、派遣できる講師数に依存している。

Q：了解しました。有難うございます。

③LQ講師の増加を願う

Q：委員長各位からLQ講師増加の要望があった。JIYD馬淵様より説明を願う。

A：JIYDとしては、各地区からの開催の要望に対応出来ていないので、是非講師の増加を進めていきたいと思っている。

今年度（JIYDの年度は1月～12月）中にも増員に着手する所存である。現在のところ予定数については具体的に申し上げられないが、一回の養成で1名の講師を誕生させるのは効率が悪いので、複数の講師を養成出来るように進めていきたい。

講師養成は、LCIFが定めている養成課程があり、講師になるための条件が定められているので、それに沿って進めていくことになる。しかし非常にたいへんなプロセスがあり、これまでの経験から少なくとも半年以上を費やす。

④薬物乱用防止について

Q：委員長各位の中には薬物乱用防止の肩書も兼務しておられる。よって「薬物乱用防止学習に活用出来ないか」といった意見がある。

A：JIYDとしてもライオンズクラブで行われている薬物乱用防止教室等、様々な青少年活動と連携出来る活動が出来ないか考えている。

LQの中にも薬物乱用防止の内容が入っており、海外の事例で旧ユーゴスラビアのボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア等では国連とLCIFが合同でLQを使って、学校で薬物乱用防止に取り組んでいる。日本でも連携出来ないか考えている。

現況：332 複合地区小池委員長

薬物乱用防止学習にも関心を持っている。私どもの地区では、毎年実施し各クラブに受講するよう勧めている。しかし毎年行い認定講師の資格を持っていながら発表する機会が少ない。PTAの会長等役職にある場合は、学校に申し入れて学習に取り組んでいると聞いている。せっきくの資格を所持しているので学習の機会を増やし子どもた

ちの役に立つよう希望している。

現況：333 複合地区小倉委員長

認定講師の資格を持ったメンバーが、学校に出向き相当数授業を行っている。この取り組がLQに繋がればより効果が拡大する。当地区ではLQを取り入れて実施している。今後の課題はさらにLQと繋げたい。

現況：334-E 地区武田地区ガバナー

電波が非常に悪いため後にする。(非常に聞き取りにくい状態である)

⑤地区ガバナーのLQに対する知識の向上

Q：ガバナー自身がLQの内容を知らない方がいる。ガバナーエレクトセミナーのカリキュラムに組み込んでほしい。

*本件は、337 複合地区青少年育成 クエスト・レオ委員長L佐藤武史からの質問事項で本日欠席のため意見交換が出来ない。よって中止となった。

⑥JIYDの視線について

Q：JIYDからライオンズクラブどのように見ているか。

A：たいへん難しい質問である。LQの普及活動は、資金面でも活動面でもライオンズクラブなしで出来るものではないと認識している。

反面難しい面もある。ライオンズクラブの委員会構成が毎年変わり一年単位で動いている。LQは長い計画性が必要であるが、担当Lが毎年交代されるため、今年の活動が次年度に引き継がれない。

そのため継続性が確保できる仕組みを作って頂くとより良いのではないかと感じる。

⑦JIYDについて

Q：JIYDについて説明を願う。

A：JIYDは2002年に特定非営利活動法人として設立された青少年支援フォーラムで、NPO法人である。事務所を東京に置いているので東京都の所管である。

前身団IYF-Japanで、IYFとはLQを開発しリック・リトルが設立した財団で、JIYD前身はその日本事務局である。

理事会があり理事構成は9名で内ライオンズクラブメンバーが3名いる。(1名は東京のメンバー、1名は千葉の元ガバナー、1名は現世話人の足達委員長)

JIYDの事業はLQの普及にある。そしてLCIFから2003年に日本国内のLQ普及の事務局を務めるように指定を受けた。

Q：330 複合地区飯田委員長

正式名称は、特定非営利活動法人青少年支援フォーラムとなっているが、ライオンズクエスト青少年支援フォーラムに変えることが出来ないのか。

A：理事会に提案すれば可能であるが、なぜそのような名称が良いのか。

Q：330 複合地区ではA地区とB地区の歴代ガバナーはLQについて対立的なっている。特にJIYDに関しては反対する歴代ガバナーがおる。よってライオンズを入れた名称に変更を願う。

Q：333 複合地区小倉委員長

名称の問題はライオンズが付いたら良いと思う。ところで講師を育成するのにどのくらいの費用が必要となるのか。

A：幅広い金額になるが、これまでの経験から¥1,000,000～¥1,500,000程度かかる。

Q：内容は、出張費、研修費等に該当するのか。

A：講師候補者を指導する上級講師が養成課程を進めるが上級講師の費用、上級講師および講師候補者の旅費交通費等である。講師養成は実際のワークショップを使っ

て進める。1人の講師を養成するのに5回ワークショップが必要になる。講師候補者と講師養成に必要なワークショップ開催地域が近ければ旅費交通費が少なく済むが、いろいろと離れた場所のワークショップで行うとなれば旅費交通費が高くなり費用がかさむ場合がある。

Q：333-B・C地区で5校集めて、講師候補者がおり、上級講師を依頼すれば認定講師を養成することが出来るのか。

A：可能性はある。

Q：それであれば¥1,000,000～¥1,500,000かかるのか。

A：ここで直ぐに回答することは出来ない。

Q：333複合地区で認定講師を養成することが出来るのかとの問いである。

A：可能性はある。

Q：332複合地区小池委員長

JIYDの理事の中にライオンズメンバーが3名入っている。これはどのように決まるのか。

A：1名はライオンズメンバーになる前から理事である。他の2名は、2006年から2007年のいずれかの年に、八複合のLQ委員長連絡会議の折に、八複合から理事を派遣してもらえないかと提案の結果、東日本代表し1名、西日本を代表し1名理事会に入ってもらった。

東日本の代表は333-C地区の元ガバナー、西日本の代表は当時335-C地区の八寫元ガバナーであったが、現在は交代され現世話人の足達元ガバナーである。

Q：JIYDの良い面・悪い面どちらも見聞きしている。ライオンズメンバーが入ることによってJIYDから色々の意見を聞き、またライオンズからの意見も聞いてもらう関係になることを願う。

Q：330複合地区飯田委員長

各種のセミナーにLQを取り入れてもらいたい。特に上級セミナーにおいて取り入れてもらわないと、各地区でLQが開催されているにも関わらず地区ガバナー等の関係者のセミナーで全くLQの内容が出てこない現状にある。是非取り上げてもらいたい。

5. JIYDからの提案事項

八複合から理事を派遣して頂くシステムを作って頂きたい。今後東日本で1名お願いしたい。

6. その他

Q：332複合地区小池委員長

今後本会議を開催する場合、開催等の問合せをできるだけ早く連絡してもらいたい。

Q：330複合地区飯田委員長

JIYDはライオンズがハンドリングしている組織であると理解しているが、LCIFの資金はわれわれ一般のメンバーがドネーションを行って運営されている組織である。また国際会長が次年度理事長になる観点から国際協会とLCIFは一体である。よってJIYDは、ライオンズが運営していると認識しているが間違いないのか。

A：JIYDはNPO法人であり、ライオンズクラブとは異なる独立した組織である。LCIFからLQの日本国内での普及活動を担う指定を受けており、この点でライオンズクラブと関連している。

Q：しかしJIYDの運営資金はLCIFから出ている。日本国内で活動するにあたって特定非営利活動法人の資格を取得したのではないのか。

A：JIYD は LCIF から資金提供を受けていない。LQを遂行するにあたって各地区のライオンズクラブが LCIF に四大交付金を申請し、その交付金でLQを開催している。JIYD はLQ開催を各地区から依頼を受けその対価を頂き運営している。

Q：資金形成は、各ライオンズクラブやLCIFである以上、運営母体はLCIFになるのではないか。LCIF がLQのライセンスを購入しその資金はライオンズメンバーのドネーションによるもので、実際には JIYD の運営は LCIF によってなされていることになる。間違っているのか。

A：JIYD は LCIF が運営している法人ではない。東京都所管 NPO 法人で、管轄は東京都、また株式会社の株主に該当するのは会員であり、会員から選出された理事会が運営している。

Q：LCIF の援助なくして JIYD は成立するのか。

A：LQの普及活動については成立しない。

Q：普及活動によって JIYD の資金が出ていることは LCIF がなくなれば JIYD も存続しないことになるのではないか。

A：存続するかしらないは分からない。

Q：企業としての継続は考えられないのではないか。

A：LQ普及活動の事務局を務めているが、活動目的としてライフスキル教育の普及事業があり、ライオンズクエストプログラムはライフスキル教育プログラムの一つである。別の形でのライフスキル教育の普及事業は遂行することが出来る。LQがなくても運営は出来る。

Q：助成失くして運営出来ないのではないのか。LCIF からの助成がなければ JIYD としての存続は出来ないのではないか。

A：現状の形態では出来ない。

Q：ライフスキル自体 LCIF が認めているので、LCIF からの資金援助をしている。JIYD の位置づけを明確にしてもらいたい。

A：335 複合地区足達委員長

他の国の動きが全て分からないが LCIF が全てその国に入って普及活動をしているわけではなく、JIYD と同様な組織に依頼し普及していると解釈している。

たいへん難しい問題であるが、飯田委員長の意見もライオンズサイドからすると出てくる。反面 JIYD の認可を受けた組織体も違うため、われわれとしても勉強していかなければならないと思慮する。今後各複合地区ならびに準地区で、ライオンズクラブと LCIF と JIYD との絡みについて理解をしなければならい必要がある。

7. 次回会議について

次回会議は、複合ならびに準地区の年次大会が行われるので、その状況を踏まえながら早い時期に各委員長にアンケートを送付し開催の案内をする。

16:15、足達世話人より閉会の言葉。

* 特記事項

- ・記述表現は、一部以外「である調」で記述しています。
- ・文中でも記述しましたが、交信状況の影響で、後半は発言者の言葉が“やまびこ”のように繰り返し、またわれわれ以外の言葉や物音をマイクが拾い、言葉が聞き取りにくく、一部「発言の内容からこのように発言されたのだろう」と解釈し記述しました。記述表現に間違いがあれば3月中旬までにご連絡ください。訂正し再送信します。